

平成 29 年度第 3 回向日市障害者計画策定委員会

【日 時】平成 30 年 2 月 20 日（火）午後 1 時 30 分から 3 時 30 分まで

【場 所】乙訓福祉事務施設事務組合 大会議室

【出席者】（委員）

拾井委員（委員長）、宮本委員、山本啓子委員、因幡委員、稲葉委員、石井委員、
植田委員、宮川委員、山口委員、堀川委員、能塚委員、桶谷委員、水上委員
（事務局）

長谷川課長、岩谷係長、大牧係長、山中主任
（傍聴者）

2 名

【内 容】

1. 開会
2. 議事

- (1) パブリックコメントの結果について
- (2) 第 5 期向日市障がい福祉計画・第 1 期向日市障がい児福祉計画最終案について
- (3) 第 3 次向日市障がい者計画進捗状況について
- (4) 第 4 期向日市障がい福祉計画進捗状況について
- (5) その他

【概 要】

1. 開会
2. 議事

- (1) パブリックコメントの結果について
・事務局からパブリックコメントで寄せられた意見と市の考え方について説明を行った。

《意見の要旨》

＜委員＞災害時の避難場所について、多目的トイレの設置など障がい者に配慮した整備を進めてほしい。

＜事務局＞災害時に配慮を必要とする方に対して、本市では、まずは一般避難所の福祉コーナー等で必要な支援を受けていただき、一般避難所では生活に支障が生じる場合には福祉避難所に移行していただくことを想定している。

＜委員＞災害時には人手不足等により福祉避難所が機能しないことも考えられるが、地

域住民の支援も必要となってくるのではないかと。

<委員>熊本の震災では防災マニュアルが通用しなかったと伺っている。災害時には想定していた対応ができない可能性が十分にあるので、福祉避難所となる施設の職員を中心に地域住民等が協力して主体的に対応していくための体制づくりが必要。防災訓練では地域住民が参加し、災害時に協力し合って対応できる体制づくりを進めている。

<委員>障がい者の就労が難しいのが現状であり、課題もあると思うが、調べてみると障がい者が活躍している企業は少なからずある。まずは、障がい者の就労について認識を広げていくことが大切。

(2) 第5期向日市障がい福祉計画・第1期向日市障がい児福祉計画最終案について

・事務局から策定委員会での審議やパブリックコメントでの意見等を踏まえた計画案の修正点について説明を行った。

《意見の要旨》

<委員>見込み量確保の方策について、もっと具体的に内容を記載する必要があるのではないかと。

<事務局>本計画は様々な意見や地域の状況等を踏まえ、総合的に各種施策を推進していくものであり、具体的な記載が難しいものもある。

<委員長>様々な事項の兼ね合いにより、表現が限られてしまうことがある。

<委員>居宅介護の利用実績が、サービスのニーズの高さにも関わらず、増えていない理由をお伺いしたい。

<事務局>一部のグループホームにおいて居住者が居宅介護を利用した場合に、グループホームの実績として計上される制度上の仕組みにより、居宅介護の利用実績が計画値と比較して増加していないものと考えている。

<委員>障害福祉サービス等に係る事業費の財源についてお伺いしたい。

<事務局>障害福祉サービスや障害児通所支援の財源は、国が1/2、都道府県が1/4、市町村も同じく1/4を負担することになっている。地域生活支援事業は補助事業であり、基本的な負担割合は障がい福祉サービスと同様であるが、国の予算の範囲内での補助となるため、実際には市町村の負担が大きくなっている。

<委員>障害福祉サービスや地域支援事業を行うための予算はあるのか。

<事務局>各事業の実績増加を見込んで、次年度予算案を編成している。

<委員>計画書に乙訓圏域に所在する施設数をサービスごとに記載しているが、具体的な事業所名は記載できないのか。

<事務局>スペースの関係上、難しい。市で毎年発行している「障がい者福祉のてびき」に記載しているので、活用いただきたい。

＜委員＞精神障がいのある当事者やその家族が悩みを共有できる家族会への加入促進や、身体障害者相談員のような精神障がいに対応する相談員制度の新設など、精神障がい者に対する取組を充実させてほしい。

＜事務局＞相談員については、国で制度化されていないので、他市と連携して国に要望している。

＜委員＞共同生活援助や施設入所支援の利用者が、実際にどこの施設を利用しているかを記載した方がよいのではないかと。

＜事務局＞利用施設の選択は、個人の心身の状況など様々な事情を考慮して行われているため、本計画に全ての所在地を記載する必要性は限定的であると判断しているが、圏域内外の利用状況は示せるように検討したい。

(3) 第3次向日市障がい者計画進捗状況について

(4) 第4期向日市障がい福祉計画進捗状況について

・事務局から第3次向日市障がい者計画及び第4期向日市障がい福祉計画の進捗状況について説明を行った。

《意見の要旨》

＜委員＞スポーツ行事の参加を促進するために、市で会場への送迎を実施してほしい。また、災害時の避難所について、視覚障がいや聴覚障害など多様な障がいに対応できるようにしてほしい。

＜事務局＞スポーツ行事のチラシを配布する等の広報を行っている。送迎については、市の規程に沿って検討したい。避難所については現在、担当課でマニュアル作成を進めており、訓練実施と合わせて検討していく。

＜委員＞市内で犯罪が発生した場合や不審者が出没したときに、障がい者施設にも情報が届くようにしてほしい。

＜委員＞今年度から自立支援協議会に就労部会が設置され、事務作業の実習が行われた。本校の生徒も参加し、これまでできなかった体験ができた。これからも継続してほしい。

＜委員＞障がい者福祉の分野に限らず、福祉全体として人材の確保が課題であると感じている。人材確保のためにも福祉に対する理解を広げていく必要がある。

＜委員長＞福祉系大学を志望する学生が減少しており、福祉施設従事者として人材の確保していくことは大きな課題。ボランティア活動に意欲のある方は多く、その方々を実際の活動につなげる方法を考えていく必要がある。

＜委員＞「支援ファイル」の導入を進め、0歳から個々の状態を記録して関係機関と共有できる仕組みが必要。

＜委員＞放課後等デイサービスが増加しているのは良いことであるが、子どもへの支援だけでなく、保護者の就労支援として利用できないか。保護者が福祉施設で従事できる

ようになれば、人材不足の解消にもつながる。

(4) その他

- ・事務局から今後のスケジュールについて、報告を行った。